

## (2) 昭和62年度環境科学実習について

前田 修

昭和62年度より授業科目が改訂され、従来の選択方式による環境科学基礎実習および野外実習が廃止されて、環境科学実習(1単位)を必修として全員に課すことになった。この科目の授業運営方法はおおむね次のようである。

1. 研究科内の6分野が平等に1.5回づつを分担して合計10回の授業(1回は3校時)を行なう。
2. 各分野から1名づつ選出された世話人が運営に当たる。
3. 世話人の選出は科長の要請に基づき分野のまとめ役となる教官が責任をもって行なう。
4. 実習内容は専門性を強めず、環境にかかわる広い領域の基礎的諸事項事象について一般的な理解を得させることを目的とする。
5. 学生に事前学習や事後学習を要するような課題を与えてはならない(他の授業を妨げないため)。
6. 原則として土曜日午前を実習時間に当てるが、やむを得ない場合は水曜日午後を実施することができる。見学など夏季休業時に実施せざるをえない場合は7月第1週に行ない、従って集中講義などはこの週を避ける。

以上の原則をもとに1月までに各分野から世話人が選出され、4月からの実施内容と方法を検討した。年度の更新に伴い実験実習委員会は解散し、この世話人会が運営の主体となった。ガイダンスを経て一部分割履修部分の選択受講者を決定し、次のように授業を展開した。

- 1 地域と環境 (スライド)  
4/18 C103教室 (吉川, 89名)
- 2 施設見学  
4/22 国立公害研究所 (石塚, 31名)  
同臨湖実験施設 (吉田, 33名)  
5/06 茨城県衛生研究所 (下条, 25名)
- 3 自然の保全(ビデオ)  
5/02 B107教室 (森下, 89名)
- 4・5 筑波山とその周辺 (バス登山)  
5/09 (1日コース, 田瀬・岩城, 89名)
- 6 環境計画  
5/16 C103 (小泉・熊谷・天田・石田, 89名)
- 7 簡単な実習  
5/23 気象 (小林, 18名)  
地理 (松本, 14名)  
植生 (及川, 30名)

計画（鵜野，27名）

8 実地見学

7/03 学園都市（田島，27名）  
東京（石田・熊谷・日端，30名）  
霞ヶ浦（前田・安田，32名）

9 汚水処理

6/06 学内処理施設（中村，89名）

10 浄化センター見学

6/10 （山中，89名）  
（括弧内は責任者と受講学生数）

一部には取り決めが実行されないため学生から不満がでることもあったとはいえ、全体として大きな事故もなく予定どおり終了した。成績の評価については各回の責任者に A-D の評点報告を依頼し、これを実習世話人代表（前田）が事務的に集計して評点を算定した。

事後の反省として最も問題となったのは当実習が土曜日に割り当てられていることで、見学の際に先方の担当者不在を理由に曜日の変更を求められたことが多く、また大学所有のバス利用は運転手不足のため困難であった。4週5休が一般化した現在、土曜日における見学授業の展開は至難であることを9月10日付けを以てカリキュラム委員長あて申し出ているが、その後検討されたかどうかさだかではない。